

法人(事業所)理念		「すべての子どもたちに、最高水準の発達支援を。」			
支援方針		専門的アセスメントによる個々のレベルに合わせた丁寧なプログラムと、科学的に根拠のある分析と技法を用いて、おさま一人一人の発達の向上を目指します。			
営業時間		11時	30分から	19時	0分まで
		送迎実施の有無		あり	なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	日常生活に関わる動作(食事、排せつ、清潔、着脱衣、身支度など)の自立に向けた支援を行う。来所したら必要に応じて私服へ着替える、連絡帳を出す、手洗いをしておやつを食べるなどの、家庭でも行う生活動作を自発的に行うことを目指す。また、自立のゴールをみんな一律にすることなく、その子一人ひとりに合わせた目標設定をし、スモールステップでできるよう支援する。環境設定を行い、時間や空間を分かりやすく構造化した支援を行う。時間には時計の数字部分をイラストに置き換えるなど、視覚的に理解しやすい提供を行うことや、タイマーを用いて次の活動までの見通しを持ち、無理なく切り替えができることを目指す。その子の興味や遊び方を参考に、少しずつ新しい遊びを紹介し、余暇の充実や人と興味の共有が広がることを目指す。			
	運動・感覚	子どもの興味に応じて、例えばバランスボールなどを用いたバランス感覚の訓練や、鬼ごっこなどの遊びを通した全身の粗大運動を行う。他にも、興味や動機に合わせた教材を用いながら、文房具の操作や手指を使った製作活動を行う微細運動など、1日の中で幅広い活動を通して運動能力の向上を促す。動作にサポートを要する子どもへは、手を繋いで歩いたり、尻ばいしたり、その子が選択する自力移動の方法で、訓練的にならないよう本人の動機を保ちながら運動能力の維持や向上に向けた支援を行う。感覚過敏の子どもへは過敏に反応してしまう刺激の把握に努めつつ、イヤーマフなどの刺激を軽減する補助具導入のお手伝いをすることで緊張のない過ごしが送れるよう支援する。集団化で刺激が多く学習や工作などに支障をきたしてしまう際には、個室空間を提供し課題に取り組めるようする。また、少しずつ集団化でも活動ができるよう、徐々に個別配慮をなくし大きな空間での活動を促す。他にも、遊びなどその子がリラックスしてできる活動は複数人で一緒に行うなど、個別空間だけの活動機会が留まることがないように支援する。			
	認知・行動	学校からの宿題や、パズル・なぞり書きなど個々で取り組める活動を提供し、学習に向かうことから始めていく。その子のペースに合わせて、課題内容を調整し負担になり過ぎず取り組めるよう配慮し、毎日積み重ねて練習していき、小さな成功を積み重ねることで定着を図る。また、おやつ時間や季節行事などでお金に見立てた教材を使用し買い物の練習も取り入れている。おやつごとに料金設定を行い、計算や残り金額に応じて買う物を考えるなど、実際の買い物場面を想定しながら、必要な硬貨と同じ絵柄を示すマッチングによる補助や計算機を用いるなど、様々なツールを用いて実際の生活場面に繋がる認知の発達を促す。行動面では、年齢が進むにつれて複雑となる子どもの動機や、時々によって増えたり減ったりする「こだわり」にも合わせて、コミュニケーションの手伝いやルール理解など、行動障害を予防する支援を行う。			
	言語 コミュニケーション	日々の生活や遊びを通して、自身のやりたいことや気持ちを伝える事、大人や子どもたちが伝えてきたことに受け答えすることなど、相互的なコミュニケーションを楽しむ時間を大切にしていける。指示を短くすることや指さしなどの補助を加えながら、生活や遊びに関連した指示に適切に反応できるよう支援を行う。限定された伝え方にしか反応できないことがないよう、一度に伝える長さや表現方法に少しずつ変化を付け、より自然な伝え方でも理解ができることを目指す。また、口頭でのコミュニケーションに限定することなく、ジェスチャーや絵カード、文字を書くなど、その子に合ったコミュニケーション方法を試し、伝える事の楽しさをたくさん経験できるように支援する。さらには視線合わせや、相手が見ている物に視線を向けること(共同注視とも呼ばれます)や表情の変化も含めた幅広いコミュニケーションの向上を促す。			
	人間関係 社会性	コンプリオでは集団生活を基本としており、それぞれの得意なことや友だちの見本となり、苦手な部分で友だちを見習うなど、子ども同士で学び合える機会を大切にしている。色々な遊び場が発生する集団環境を生かし、模倣を通して遊び方が広がるよう機会を増やしていく。コンプリオで会いたいと思う友だちがいて、のめり込むほど好きな遊びや活動を見つけないなど、楽しい気持ちでコンプリオに来てリラックスして過ごす時間を大切にしている。そういった時間を通して、人と触れ合うことの楽しさや安心感を得る経験が積み重ねられるよう支援する。時に起きる子ども同士でのトラブル機会を大切に、なぜ友だちは怒ってる?悲しんでいる?どうやって仲直りできる?他に解決できる方法は?などを、一緒に悩み、できないことの葛藤も味わいながら毎日起きる出来事を大切に、みんなで一緒に過ごす時間を楽しんでいく。			
家族支援	送迎時や日々の連絡ノート、定期的な面談にて事業所での様子や取り組み方の説明や、ご家族からの質問・相談をお受けする。また、ご家族と相談しながら、家庭で実践できる課題提案や取り組みやすい方法、困った時の対応方法をんでいただく等で目標が達成できるよう支援する。	移行支援		必要に応じて移行するステージに適した社会資源を提案する。子ども一人ひとりのニーズに応じた支援計画を作成し、移行先での適応をサポートする。学校や地域の支援機関と支援計画を共有することで、現在の目標や達成に向けた取り組み方を共有していく。また、その子の強み(ストロングポイント)や、苦手なことへの取り組み方を共有していき、子ども達が安心して次のステージに移行できるように支援する。	
地域支援・地域連携	子どもが住み慣れた地域の特性を生かしながら、その場所で安心して未永く生活できるように支援する。食事購入やお手伝いなどで買い物に出かけ、地域で過ごす人との交流機会を提供する。また、近隣の公園や催し物、季節ごとに見どころのある場所へ出かけ、地域の特色に触れる機会を提供し活動の幅が広がるよう支援する。学校、家庭、医療機関など、様々な機関と連携することで、子どもの成長を途切れなくサポートする。	職員の質の向上		発達支援に関する高度な専門性を有するスーパーバイザー(SV)を常勤で配置し、児童発達管理責任者と協力しながら療育の質の維持向上に努める。療育の進め方に関して管理職を含んだ定期的なケース会議を開催し、支援内容の検討、調整を行う。療育に同席しながら行うOJTやコンサルテーションをはじめ、発達支援に関する知識や技術、子どもの権利擁護・虐待防止研修、身体拘束適正化研修、感染防止対策研修、BCP研修、防災研修等のOFF-JTの機会を提供する。	
主な行事等	(夏休み)外出・外食プログラム (8月)夏祭り (10月)ハロウィン (12月)クリスマス会 (2月)節分 (3月)お別れ会 おやつ作り				